

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.88 - 2016年4月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



兄

弟の皆さん、友人の皆さん、

ストレンナ2016の光に導かれ、イエスと一緒に、聖霊のうちにこの宣教の旅を、私たちは共に歩みます。そのために、総長は今年、**無償性**の体験を味わい理解するよう、そして若者たちにも味わわせ理解させるようにと招いています。このことを勇気をもって提示し、時間をかけて徐々に実践する必要があります。私たちの現場で自由に献身する若者たちの惜しみない心に、私たちはしばしば強い感銘を受けます。例えば、インドのアンドラ・プラデシュとテランガナの子どもたちのグループは、洪水で深刻な被害を受けたチェンナイの子どもたちのため、募金活動をするにしました。私たちはこの無償性の感覚を、特別な意味で**サレジオ宣教ボランティア活動**のすばらしい体験の中に見ることができます。実際、若いボランティアの養成とボランティアの体験は、無償で自分を与えることのすばらしさへ、若者たちを本格的に導き入れるものとなります。受けるよりも与えること、所有するよりも自分を与えること、手に入れるよりも手放すことのうちに、より大きな喜びが実際にあることを、若者たち自身、体験するのです。

友人の皆さん、聖霊の冒険を続けましょう！

宣教顧問

ギジェルモ・バサニェス神父



2016年サレジオ宣教の日 ビデオ

宣

教部門は毎年、トリノのMissioni Don Boscoと協力し、サレジオ宣教の日のための補助資料として、その年のサレジオ宣教の日のテーマを取り上げたビデオを制作

します。今年のビデオは、オセアニアのサレジオ会を紹介します。ビデオは、オセアニアについてのドン・ボスコの宣教の夢で始まります。1885年、ドン・ボスコは「まとまりとなった数々の島」を夢見ます。「その住民は気質も外見も多様でした。」そして「そこに住む大勢の子どもたちがいて」、子どもたちはドン・ボスコとサレジオ会員に向かって手を伸ばし、言いました。「来て、私たちに助けてください！」

多くの人にとって、オセアニアは未知の世界です。サレジオ宣教の日2016は、オセアニアの自然の美しさ、幅広い文化の多様性、サレジオ会による若者のための活動への意識を高めることを目指します。サレジオ宣教の日2016のメッセージに総長が書いているように、サレジオ会は「各民族グループ、各国民の多様で非常に具体的な文化の鍵を理解する力を、さらに培うこと」を試みています。

ビデオは、オセアニアの人々が福音に開かれていることを紹介します。「オセアニアのサレジオ会にとって、今は実に好機です」とアンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父は語ります。「ドン・ボスコのカリスマにとって、ここはイエスを告げ知らせるための肥沃な土地です。……私たちがドン・ボスコと現代のオセアニアの若者に忠実であるならば、カリスマはさらに実を結び、より深く根を伸ばすでしょう。」

ビデオ <http://tinyurl.com/grkvbqq> はサレジオ宣教の日の小冊子と共に、オセアニアをドン・ボスコの目を通して見るため、初めて福音を耳にする人々にイエス・キリストを告げる約束に満ちた新たな前線がそこにあるのを見るために、助けになるものです。



主の復活おめでとう！

洗礼を受け、宣教ボランティア、そしてサレジオ会員になった

私

は信仰を持たないふつうの日本人として生まれ育ちました。日本に50年以上暮らすサレジオ会宣教師アキレ・ロコピアナ神父の指導のもと、勉強した後、23歳のときとうとう洗礼を授けていただく決心をしました。その翌年、私は東京、目黒のサレジオ会の教会で堅信の秘跡を受けました。

24歳のとき、私は東京のホームレスの人々や心の病に苦しむ人々のため、精神保健福祉士として働きはじめました。ある日、一人のホームレスの方が癌を患っているため入院したと聞き、見舞うため病院に向かいました。何かプレゼントを買いたかったので、東京の街中の店に入りました。店の3階にいたとき、突然、それまで聞いたことのないような声が聞こえたようでした。毎日、祈るときに感じていた内面の声とは全く違うものでした。その声は、「アフリカへ行き、司祭になりなさい」と言いました。でもどうやって？ アフリカに行くつてなどありません！

その一年後、私はロコピアナ神父と再会し、自分が聞いた呼びかけについて話しました。数か月後、日本を訪れていた当時のスーダンの委任地区長に会い、宣教ボランティアになりたいという希望を伝えました。

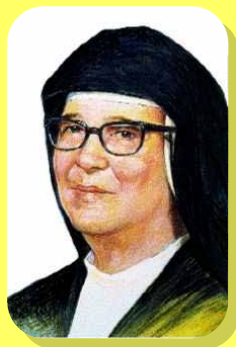
とうとう2011年、私はすべてを後にし、それまでの人生でいちばん難しい決断でしたが、主の呼びかけに従う決心をしました。日本を去る前に、仕事を辞め、両親を納得させなければなりませんでしたが、キリスト教徒である母は涙を流しましたが、私の選択を受け入れてくれました。しかし、無神論者である父を説得するには長い時間がかかりました。私はストリートチルドレンの中でボランティアとして働くため、南スーダン (AFE管区) のワウに行きました。

その後、私はサレジオ会員になることを決心し、2012年にAFE管区のケニア、ナイロビにある養成の家で修練準備期に入りました。タンザニアのモロゴロで修練期を過ごし、2014年に初誓願を立てました。今は、タンザニアのモシのポストノビス養成支部で哲学と教育学を学んでいます。

2015年の夏、ポストノビスの一年目を終え、私は誓願を立てたサレジオ会員として初めて日本に帰りました。休暇中、私は山のとっぴんに留まるために神に呼ばれているのではなく、若者と共にいること、特に私たちの社会で愛されず、受け入れられていない人々と共いながら、キリストの貧しさ、キリストの謙遜、キリストの従順となるように呼ばれていると気づかされました。神が私たちに下さったものを理解するために、深い単純さに満ちた内的態度を持たなければならないと気づきました。

この何年か、所属するスーダンの委任地区の人々に奉仕してきた私は、ソマリアのような、サレジオ会員のいない国で宣教師になることを夢見ています。そして神に呼ばれるならば、ルイジ・ヴェルシリア司教やカッリスト・カラヴァリオ神父のような殉教者になりないと望んでいます。その地のキリスト者、キリスト者でない人々のため、良い土となるために。しかし今は、チマッティ神父のような謙遜なサレジオ会員になるのが私の夢です。

日本出身、スーダンの宣教師
森戸千尋神学生



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエル・ルイジ・カメローニ神父

サレジアン・シスターの福者マリア・ロメロ・メネセス (1902-1977) の祈りの中に次のものがあります。「わが神よ、私の心を変え、新たにしてください、でも、自分の弱さと惨めさの記憶を私に残してください、謙遜にとどまり、あなたのおわれみから新たな賜物を頂くにふさわしい者であるために。……神よ、カルワリオへの道で出会う人々をなぐさめることができるように、私に恵みをお与えください……神よ、私があなたの善といつくしみの表れとなりますように。」



サレジオ会の宣教の意向 4月

アフリカとマダガスカルのおラトリオやユースセンターが、宣教奉仕活動と、初めて聞く人々に福音を告げる働き、まことの frontline でありますように。

オラトリオやユースセンターは、この広大な地域の多くのところで、しばしば宣教の front line となります。キリスト教徒でない、あるいはイエス・キリストの福音にまだ表面的にしか従っていない多くの若者にとって、これらの教育的環境は、キリスト教的環境や、イエスに従う人々との、初めての出会いの場です。若者たちはまさにその中で、福音からインスピレーションを受けた平和、正義、和解のある新しい社会を築くことは可能なのだと、手で触れるように実感するのです。これこそ、ベネディクト十六世がシノドス後の勧告「アフリカの使命 Africae Munus」(2010) で示した道です。

